

特別企画：英語能力テスト最新事情 【発表概要】

Special Event: Recent Trends in English Proficiency Tests SESSION1 (共同研究棟 第3 AV教室: 2F)

発表① 10:00-10:30	T-SST (Telephone Standard Speaking Test)	アルク教育社
発表② 10:30-11:00	英語コミュニケーションテストOPIc	NECラーニング
発表③ 11:00-11:30	CASEC	教育測定研究所 (JIEM)
発表④ 11:30-12:00	TOEFL Test	国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部
発表⑤ 12:00-12:30	TOEIC Test, TOEIC Speaking and Writing Tests, TOEIC Bridge Test	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)
SESSION 2 (第1学舎 102教室)		
発表⑥ 13:20-13:50	G-TELP	G-TELP日本事務局
発表⑦ 13:55-14:25	BULATS	日本英語検定協会
発表⑧ 14:30-15:00	IELTS	日本英語検定協会
発表⑨ 15:05-15:35	VERSANT™	ピアソン・ジャパン株式会社
発表⑩ 15:40-16:10	VELC Test	VELC研究会事務局 (金星堂内)

発表①

TSST (Telephone Standard Speaking Test)のご紹介

(株)アルク 英会話事業部 福江友樹

アルクは、電話を使った英語スピーキング能力試験 Telephone Standard Speaking Test (TSST) を開発し、2004年から運用している。本発表では TSST の概要 (受験方法、質問項目、評価官の品質管理、結果公開等) のほか、主に TSST の評価基準についてご説明する。TSST の質問はデータベースからランダムに抽出された 10 問で構成され、1 問の回答時間は 45 秒である。発話の評価は訓練を受けた 3 人があたる。様々な評価基準がある中、なぜ TSST は下記の評価基準を採用しているか、何をもって英語が話せると判断しうるか、人が評価することの意味などにつき、お話しする。

TSST の 4 つの評価基準：

- ・ 総合的タスク (英語を使って何かできるか : Language function)
- ・ 内容 (扱える話題の広さは? : Content/Context)
- ・ 正確さ (意味が上手く伝わるか : Accuracy: Grammar, Vocabulary, Fluency, Pronunciation)
- ・ 発話の型 (扱える英語の形は何か : Text Type)

これら 4 つの観点から包括的に評価 (Holistic Rating) して、9 段階のレベル判定をする。

発表②

OPIc (Oral Proficiency Interview-computer)で測る 日本人の英語コミュニケーション能力

八木智裕 (NEC ラーニング株式会社)

OPIc は、全米外国語教育協会 (ACTFL) が、ACTFL 公認評価者と受験者が 1 対 1 でインタビューを行い、英語によるコミュニケーション力を判定するテスト OPI(Oral Proficiency Interview)を、受験しやすい iBT(Internet Based Test)形式で実施できるように 2007 年に開発したものである。英語の語彙力や文法の知識を測定するだけでなく、実際の業務や生活の中でどれだけ効果的かつ適切に駆使できるかを測定する。

本発表では、OPIc の概要を紹介するとともに、当社が NEC、NEC グループや顧客を対象に提供した半年間の OPIc テストサービスの結果を踏まえ、アセスメントテストによる英語コミュニケーション能力判定の必要性を論じる。今回の調査で把握できた日本人の英語コミュニケーション能力の現状を報告し、将来のグローバル人材育成を目指した今後の活動を紹介する。

発表③

発表④

TOEFL® Test (TOEFL iBT、TOEFL ITP) の概要と指導に向けて

星川 朗 (国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部)
金丸 敏幸 (京都大学)

TOEFL (Test Of English as a Foreign Language) テストは、英語を母国語としない人の英語力を測るテストとして、アメリカに本部をおく非営利の教育団体 Educational Testing Service (ETS) が開発した試験である。現在、日本を含めた世界 165 ヶ国で実施されており、おもに北米の大学や大学院、その他英語圏を中心として留学を希望する際の英語力の証明として、そのスコアは 130 ヶ国、9,000 以上の団体で受け入れられている。日本国内でも学内の単位認定や入試優遇、海外派遣選考などで利用されており、近年とくに注目を集めているテストである。

本発表においては、TOEFL iBT を中心に TOEFL テストの対象や測定できる能力について紹介する。また、大学において TOEFL を対象とした授業に取り組む際に利用しやすい団体向けのテストプログラム TOEFL ITP テストについてもあわせて解説し、これらのスコアの見方やスコアアップに向けた指導に向けたヒントについて説明する。

発表⑤

TOEIC® Test, TOEIC® Speaking and Writing Tests, TOEIC Bridge® Test ～実践的な英語発信能力の測定《TOEIC® SW テスト》～

三木 耕介 (国際ビジネスコミュニケーション協会)

当財団では《TOEIC® テスト》の他に、入門編としての《TOEIC Bridge®》と実践的な英語発信能力の測定を目的とした《TOEIC® SW テスト(Speaking and Writing)》の実施運営を行っている。今回はテストの内容・採点方法・活用例について特に TOEIC SW テストに関連した情報を中心にご紹介する。

■TOEIC® SW テストとは

国際的な英語使用環境において、効果的にコミュニケーションをはかるために必要な発信力を測定する世界共通のテストである。TOEIC テストと併せて受験いただくことで「聞く・読む・話す・書く」の英語 4 技能の測定が可能になる。日本では約 140 の企業・大学で活用され、企業では海外赴任者・出張者選抜、研修の効果測定、新入社員のレベルチェックに、大学では授業や留学の効果測定、成績評価、就職対策として利用されている。

発表⑥

大学における英語テスト G-TELP (ジーテルプ) の活用事例

沼田剛史 (G-TELP 日本事務局)

アメリカ ITSC が開発している英語テスト「G-TELP」(ジーテルプ) は、日本において主に大学・短期大学におけるプレースメントテストやアチーブメントテスト等に活用されている。さらに最近では成績評価の平準化、単位の質の向上、学力推移・到達度の客観的検証、自学自習の奨励等のツールとして G-TELP を活用する大学も増えてきた。本発表では、G-TELP の特長をはじめ、そのような G-TELP を導入している大学の導入背景並びに活用事例、そしてなぜ TOEIC® など他の外部テストではなく G-TELP を使っているのか? テスト自体の有用性の他に、実際にテストを実施運営する実用性の観点からも紹介する。また、G-TELP は文法、聴解、読解、語彙のマークシートテストに加え Speaking・Writing テストもリリースした。G-TELP によるトータル的な「本当に使える英語力」の把握についても提案したい。

発表⑦

BULATS(Business Language Testing Service、ブラッツ)について

大屋 雅史 (日本英語検定協会)

公益財団法人 日本英語検定協会とイギリスケンブリッジ大学の語学試験機関であるケンブリッジ大学英語検定機構とで共同開発したビジネス英語能力判定テストである BULATS (Business Language Testing Service、ブラッツ)。2004 年のリリースより、三

井物産、住友商事、三菱商事、三菱重工業、日立製作所、東芝、ネスレ日本、日本銀行等、リーディングカンパニーやグローバルカンパニーを中心に、多くの団体に活用いただいている。様々な英語能力判定テストが世に存在している中で、グローバル展開をしている大手企業が、なぜ BULATS を導入するのか？その BULATS のテスト内容をはじめとするテスト概要と、大手企業が BULATS を通して何を測ろうとしているのか、そして企業での導入実例等を中心にお話します。

発表⑧

IELTS(International English Language Testing System アイエルツ) について

大屋 雅史 (日本英語検定協会)

IELTS(International English Language Testing System、アイエルツ)は、英語の環境で、授業についていく、または仕事や生活をしていく英語力がどの程度あるのかを測るために考案された試験で、世界の 6,000 を超える教育機関、企業、国際機関、政府機関などに採用されている。また、英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アイルランドでは、ほぼ全ての高等教育機関で認定されており、アメリカでもアイビー・リーグを構成する全大学を含む、約 3,000 の高等教育機関・プログラムで認定されている。年間受験者数は世界で 200 万人を超え、日本においては 2010 年から受験者数が倍増している IELTS テストについて、テストの概要とその特徴を中心にお話します。

発表⑨

VERSANT スピーキングテストの概要と 立命館大学経済学部における実践報告

清水裕子 (立命館大学)
上村武司 (ピアソン・ジャパン株式会社)

日本でもコミュニケーション能力の測定やパフォーマンス・テストがキーワードとなり、産出能力の測定と評価が注目されてきているが、本発表では、立命館大学経済学部での VERSANT の実践例を紹介する。VERSANT は、米国で開発された高度な音声認識を利用して、英語スピーキング能力を迅速かつ正確に測定することができるシステムである。グローバルに展開する大手企業や各国の有名大学で数多くの採用実績があり、その信頼性は高く評価されている。

立命館大学経済学部では、英語圏への 4~5 週間の短期留学プログラムを展開しており、2012 年度からは、英語学習の動機付けになることを期待して、プログラムの事前・事後研修で VERSANT を実施している。本発表では、短期留学での英語面における効果と参加者の英語力の変化に対する実感との違いについて分析結果を紹介すると共に、紙媒体のテストでは測定しきれない産出能力の測定の必要性和 VERSANT の有用性について報告する。

発表⑩

VELC Test の信頼性と妥当性

水本篤（関西大学）

VELC Test は日本人大学生の英語力を診断するために開発された。全国のようなレベルの 5,000 人を超す大学生被験者のデータを基にレベルを設定。大学生に適したアカデミックな内容で、現代社会の様々なトピックを題材としている。

厳しい基準のラッシュモデルに基づき分析し、信頼性のある問題のみを採用。毎回同レベルの問題が出されるので、経年的に英語力の変化が把握できる。

問題が個々に独立し、難易度が異なるので、幅広い層の受験者に対応し、個々の能力のわずかな差異が測れる。また問題の基礎となる要素を細分化しているため、英語力の構成要素を細かく測定でき、間違えた原因が容易に特定できる。

受験結果はマークシートの到着の翌日中に e ポートフォリオで通知。e ポートフォリオには、スコア、TOEIC 予測スコア、経年変化、状況別 CAN·DO レベル診断、スキル別診断、学習アドバイスを表示。教員用 e ポートフォリオでは学部、学科、学年など自在に受験者を管理できる。
